

乙冠

ても気持ちよく演技「た」と振り返る針尾首にかけられたメダ、自身がモデルとなアロビックのピクトが描かれており「ないえない気持ち。ですわね」。メダルの美感しながら、うっ涙を浮かべて喜びをめた。(石井亜由美)イト種目の成績は次

- アA ①河野さゆり ②小松田葵 ③大庭奈 ④4▽シニア
- 山田佳世(愛知県)47
- 山志穂美(北海道)46
- マスターズ ①針尾 ②河村 ③荒木 ④2▽グラ
- 山県)46 ③兵藤千 ④45



1次ラウンドで伸びやかに演技する針尾選手(中央)＝武雄市のケーブルワン・スポーツパーク

県勢、綱引初勝利ならず



決勝トーナメント1回戦で鹿児島県と対戦する成年女子の県チーム＝唐津市文化体育館

成年女子

○…綱引競技は、唐津市文化体育館で成年男子と成年女子の2種目が行われた。佐賀県チームは成年女子に出場し、予選リーグと決勝トーナメントで5戦全敗に終わり、24日の成年男女混合も含め、悲願の国入ポ初勝利は次回に持ち越された。

県チームは予選リーグの初戦、昨年の鹿児島県体で準優勝した秋田と対戦。相手のじつくりとした引き込みにはしばらく耐えたものの、じりじりと前に引き出された。久保喜久男監督は「(県チームの)最前列の選手が引き込めると判断したら、合図で一丸となった引張る作戦だった

らえなかった」と完敗を認めた。

続く福岡B、神奈川の開始直後からの強烈な引きに県チームはなすすべがなかった。決勝トーナメント1回戦は、鹿児島との九州対決。この試合でも県チームは力負けを喫した。

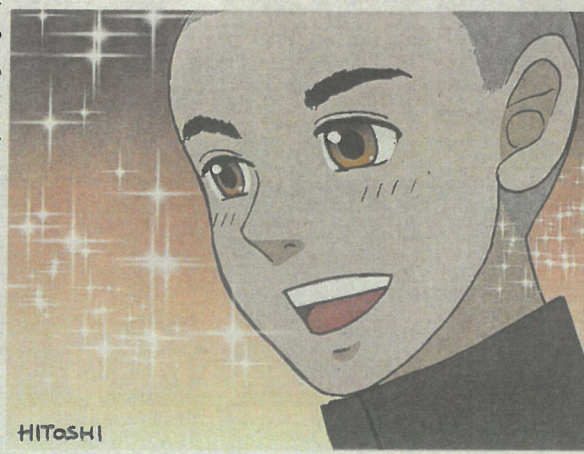
大会直前まで総重量200kgの負荷を引つ張る猛練習に励んだアンカーの鶴田朋子選手は「選手層が薄く、十分な練習が積めなかった。開催県として、頑張っている姿をもつ少し県民に見せたかった」と悔しさをにじませた。(山内克也) 成年男子①兵庫県②東京都③石川県▽成年女子①石川県②秋田県③大分県(佐賀県は決勝トーナ

第五巻(八月十五日) (19)

村山 仁志 作画

昇太は逆に少年の目の付け所に感心した。まさかオーストリアの机と椅子に二十世紀的な要素が感じられるなんて、想像すらしていなかった。 「それもこれも、やはり一九四五年に日本が太平洋戦争に勝利し、戦争を終わらせたから、ということでありませぬ。もしも負けていたならば、憎き米英から全てをむしり取られ踏みつけられ、これほどの発展はあり得なかったに相違ありません」

昇太とアンジェリカは、顔を見合わせた。 「私たち帝国軍人が前線まで戦い……いや、国民総動員で鬼畜米英に立ち向かい、空襲で家族や友人を奪われ、血の涙を流し、多大な被害を被った上での大きな戦果、偉大なる成果がこの七十九年後の美しい日本だと考えると、大きく報われたような感じがいたします」 少年は頬を上気させて言った。 「これならば命は惜しくない。いや、生命は繋がり、やがて日本は目を見張る発展を遂げたのだ。



HITOSHI

だ。私はそれを知って大きな励み、大きな自信となりました」 少年は晴れやかな顔で言った。 「これで、心置きなく特攻に行くことが出来ます。たとえこれが夢としても、感謝に堪えません。おふたりさま、今夜は本当にありがとうございました」 改めて姿勢を正し、敬礼をする。 「いやいやいやー!」 昇太とアンジェリカは同時に突っ込んだ。 「三郎くん、神風特攻隊の隊員なの!？」 「はい。私は、正確には海軍飛行予科練習生、予科練であります。鹿児島島の鹿屋航空基地で日々飛行訓練に励んでおります。世界に誇る名機零戦に跨って敵空母に襲い掛かり、ひとりでも多くの米兵を道連れにする覚悟であります